

Challenger 2022 年を振り返る一

2 022 年も残りあと 1 カ月を切りました。皆さんにとって今年はどうな 1 年になりましたか。本連載は、2021 年 12 月から始まり丸一年となりました。登場した Challenger は総勢 46 人。それぞれが「挑戦」する姿は、とても輝いていて、取材に伺う度に「自分は何かに挑戦できているだろうか」と自身を振り返るきっかけになったように思います。お話を聞かせてくださったアスリートの皆さん、本当にありがとうございました。

今回、1 年の振り返りのタイミングでお話を伺ったのは、今年の 2 月に登場してくれた大河原秀速さん。大河原さんが所属するいわき FC U-18 は「高円宮杯 JFA U-18 サッカーリーグ 2022 福島」で F2 リーグ優勝・F1 リーグ昇格を決め、大河原さんはリーグ得点王となり、目標を一つ達成しました。入団 2 年目の大河原さんにとって 2022 年はどんな 1 年だったのか、そして 2023 年はどんな 1 年にしたいのか、お話を伺いました。



F2 リーグで得点王に輝き受賞したトロフィー

Profile

- 生まれ / 2005 年 8 月 16 日、滝根町
- サイズ・ポジション / 173 ㎝、65 ㎏、MF
- サッカー歴 / 小学 1 年から中学 3 年までピアノコーネ福島、高校 1 年からいわき FC U-18。
- 学校 / 滝根中学校 → いわき光洋高校 2 年

挑戦者 - 番外編 2 -



© IWAKI FC

いわき FC U-18 所属 大河原 秀速 Shuto Okawara (MF)

世界で通用する身体と技術、優れた能力



プロで活躍するために

チームとしては、目標であった福島県リーグで F2 リーグ優勝・F1 リーグに昇格できて本当に良かったです。チームワークが高まってきたと感じています。個人としてもリーグの得点王を目指していましたが、しっかりと達成できて良かったです。しかし、結果として得点王になることができませんでした。大事な場面で点を決められないシーンがたくさんありました。実際に、東北クラブユース (U18) サッカー選手権大会では、自分が点を決められずに全国大会出場を逃して悔しい思いもしました。また、同世代の選手の活躍を見ると、見えない大きな差を感じ、自分に足りないところがたくさん見つかり、今のままではいられない、一つ一つの練習をもっと意識して頑張らないといけないと感じるシーンとなりました。

来シーズン、チームとしての目標は福島県リーグで再び優勝・昇格すること。さらには、東北クラブユース大会で優勝し、全国大会に出場すること。個人としても F1 リーグの得点王になるなど爪痕を残したいです。

一年前は「プロサッカー選手になる」という夢で終わっていました。今は「プロサッカー選手になって活躍すること」が目標になりました。達成するために、ピッチ上ではもちろんですが、オフザピッチでも「自分が何になるのか」ということをしっかりと意識して、そのために何をすべきか考えて行動し、チームを引っ張っていきける選手になりたいと思っています。



新井 健太 監督

一年の間に、チーム・個人としても浮き沈みがあります。彼なりに考え、乗り越えた一年だったのではないかと、思います。来年に向けては、「行動」でチームを引っ張っていきける選手になってほしい。ポジションも前の選手なので、背中で語れる選手になることを期待しています。